

調査結果の概要

令和4年度については、令和2、3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年4月1日から6月30日までに実施される健康診断について当該年度末までに実施することとなったことから【参考値】として公表します。

そのため、成長の著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したものであり、過去の数値と単純比較することはできません。

1 発育状態について

愛媛県の子どもたちの発育状態を、全国平均や令和3年度の県平均と比較してみると次のようになる。

〔 県平均：公立幼稚園、小・中・高等学校の悉皆調査による
全国平均：文部科学省が実施した学校保健統計（抽出調査）による 〕

（1）身長

前年度県平均との比較では、男女とも6歳から17歳のほぼ全ての年齢で前年度を上回っている。

全国平均との比較では、男女の全ての年齢で下回っている。

- ・男子は、前年度県平均と比べ、6～8歳、10～14歳、17歳で上回り、差は最大で+0.6cmである。
また、全国平均と比べると、全ての年齢で、0.4～1.0cm下回っている。
- ・女子は、前年度県平均と比べ、6～15歳で上回り、16、17歳で下回っており、差は最大で+0.5cmと-0.4cmである。
また、全国平均と比べると全ての年齢で、0.5cm～1.1cm下回っている。

（2）体重

前年度県平均との比較では、6歳、8歳から13歳の男女、7歳、14歳、17歳の男子が上回り、15歳16歳の女子が下回っている。

全国平均との比較では、12歳、13歳の男子、13歳から17歳の女子が上回り、6歳から11歳の男女、14歳から17歳の男子、12歳の女子が下回っている。

- ・男子は、前年度県平均と比べ、6～14歳、17歳が上回り、差は最大で+1.1kgである。
また、全国平均と比べると、12、13歳で上回り、6～11歳、14～17歳で下回っており、差は最大で+0.3kgと-0.6kgである。
- ・女子は、前年度県平均と比べ、6、8～13歳で上回り、15、16歳が下回っており、その差は最大で+0.7kg、-0.2kgである。
また、全国平均と比べると、13歳～17歳までが0.1～0.3kg上回り、6～12歳で0.1～0.6kg下回っている。

身体の発育と運動は非常に密接な関係があることから、引き続き、学校生活や日常生活の中で、積極的に体育活動に取り組むように促すとともに、望ましい生活習慣を身に付けられるように各学校の実態に応じて指導していくことが大切である。

2 疾病状況について

疾病状況について、疾病・異常のある者の率を全国平均や令和3年度の県の平均等と比較してみると次のようになる。

(1) 脊柱・胸郭・四肢異常（※四肢が平成28年度から追加された）

前年度の県平均との比較では、幼・小・中学校の男子、高等学校の男女において上回っている。

また、全国平均との比較では、中・高等学校の男女において上回っている。

(2) 裸眼視力（1.0未満）

前年度の県平均との比較では、小・中・高等学校の男女において上回っており、ここ数年上昇傾向が継続している。

また、全国平均との比較では、幼・小・中学校の男女、高等学校の女子で上回っている。

(3) う歯（むし歯）

前年度の県平均との比較では、高等学校の男子のみ「未処置歯のある者」の率は高くなっているが、全体的に下降気味である。

また、小・中学校の男女、幼稚園の男子が全国平均を上回っている。

(4) 心臓の疾病・異常

前年度の県平均との比較では、小・中・高等学校の男女が上回っている。

また、全国平均との比較でも、小・中・高等学校の男女が上回っている。

(5) 腎臓疾患

前年度の県平均との比較では、高等学校の男女で上回っている。

また、全国平均との比較では、高等学校の女子が上回っている。

健康診断や、日常の健康観察の結果を踏まえ、医療機関での精密検査や、治療を勧め、必要な事後措置を行うことは重要である。

保護者や関係機関等と連携を図りながら、今後も健康相談や保健指導を通して、一人ひとりの健康状態の把握や管理に努めることが望まれる。